

栄養不良で衰弱 ■ 一度も病院での治療なし

谷川 医師
党東京比例候補

「命にかかる状態」

東日本入管センター

出入国在留管理庁東日本入管センター（茨城県牛久市）に8年間収容されている男性は栄養不良で衰弱しているにもかかわらず、十分な治療を受けられていません。男性は一度も病院で治療を受けたことがないと話しています。血液検査の結果を見た谷川智行医師（日本共産党衆院東京ブロック比例候補）は「すぐに入院し、検査と治療を行うべきだ」としています。

（小幡花恵）

睡眠は30分しか

男性はパキスタン国籍のムスタファ・カリルさん（59）です。車いすで入管の面会室に現れました。質問には答えますが表情は之しく声に力がありません。髪とひげが長

ムスターさんの血液検査結果。基準値より低い「-」の文字が多い

ムスターさんの血液検査結果。基準値より低い「-」の文字が多い

タフアさんは毎日3回以上お風呂に入ります。彼の皮膚は布のように縮んでしまっています。収容されたこの状態は内



付しがよく健康そうででした。

本紙は同センターにム

ムスタファさんは1987年に来日。これまで5、6回難民認定申請をしましたが、最後の申請は2010年10月に却下されました。仮放免は、「保証人をもうおらず保証金も払えない。住むところもない」から求めましたが、もうえなかつた」といいます。そして申請していました。

10日にムスタファさん

数年前に入管内で撮影

に面会し、血液検査の結

めています。

果を見た谷川医師は次のように述べました。「かなりひどい貧血です。ヘモグロビン値が32%の9に気附いており、輸血も検討される状態です。血液の材料の鉄分が枯渇しています。嗜血（かっけつ）が続いている」とました。骨格が見えるまで肉が落ちてあら骨の下は大きいくびれ、脇腹の皮膚に布のように縮んでしまが寄っています。収容されたこの状態は内

付しがよく健康そうででした。

本紙は同センターにム

ムスタファさんの治療経過を問い合わせましたが、同センターは「個人については回答しない」と述べました。

改悪入管法が施行されればムスタファさんは強制送還の対象になります。ムスタファさんは「パキスタンには帰る場所がない。親族も親戚もいない」と在留許可を求